

日本文学科腐女子概論

——学生アンケートの結果から——

佐藤 真奈美

はじめに

私の属する日本文学科のイメージは、「地味で暗くてオタクの多い学科」、だそうだ。集団の中にいる私でさえも、あながち間違つたイメージではないように感じる。他学科、特に英文学科や国際文化学科と比べると、なぜか日本文学科には華がない。入学当初に思い描いていたキラキラとした女子大のイメージとは180度違うものである。私自身も決して派手なタイプの人間ではないため、居心地は必ずしも悪くはないのだが、それにしてもこのイメージはいかなるものかと考える。しかし実際、地味な学生も多く、オタクも多い。マンガの貸し借り、アニメの語り合い、集団でニンテンドーDS……、日本文学科ではよく見る光景である。周りに迷惑をかけているわけではないが、やはり見ていていい印象は感じられない。

かくいう私もオタクの部類に入る人間である。元々女性はコレクター気質な人が多いと言うが、まさに私もコレクターだ。小学六年生の頃に当時テレビアニメで人気だった高橋留美子の『犬夜叉』にハマった。コミックスを筆頭に、関連グッズを買い漁る日々が続ぎ、小遣いのほとんどを費やした。中学生になった頃から他のマンガにも興味を持ち出し、現在では少女漫画をはじめとした女性向けマンガ約700冊、少年漫画約200冊、ライトノベル約100冊、ドラマCD等のアニメ関連CD約50枚を所有している。そして、これらの3分の1を占めるのがボーイズラブ作品である。私がこのようなジャンルの本を読むようになったのは中学二年生の頃であった。当時の友人が貸してくれたマンガがきっかけと

なつて、この世界に足を踏み入れることとなつたのである。

さて、ボーイズラブを好んで読む女性のことを「腐女子^{ふじょし}」という。私は、オタクの多いとされる日本文学科に属する者として、日本文学科ならではの卒業論文を書きたい、と思つた。そこで、日本文学科の学生を中心に、「ボーイズラブ」および「腐女子」についてアンケート調査を行い、腐女子とは何か、また日本文学科における腐女子像や腐女子の求めるボーイズラブの「王道」とは何か、などについて考察を行うことにした。

一 腐女子概論

最近「オタク」がメディアで多く取り上げられるようになり、「萌え」「アキバ系」などのオタク用語も少しずつ世間に浸透しつつある。それに伴つて、「腐女子」の存在も公になつてきた。しかし、また「腐女子とは何か」を理解していない人は大勢いるだろう。まず腐女子の生誕・特徴、ボーイズラブの発生と展開などについて述べていく。

そもそも「腐女子」とは何なのか。杉浦由美子『腐女子化する世界 東池袋のオタク女子たち』には、「腐女子」とは男性同士の恋愛やセックスを描く「やおい」や「ボーイズラブ（BL）」を嗜好する女性たちのこと」とある。大崎祐美の『腐女子のことば』においても、「腐女子とは「男同士の恋愛を愛好する女性」という意味だ。それ以上でもそれ以下でもない。」とある。まさにこの通りで、腐女子とはこのような趣味を持つた女性を表す言葉なのである。

オタク、と聞くと、大抵の人は「ズボンに裾をいれたネルシャツ」「リュック」「メガネ」「帽子またはバンダナ」「小太りまたは痩せ型」の男性を思い描くだろう。このイメージは俗に「アキバ系」と呼ばれる種類のオタクである。このアキバ系が世間に広く知られるきっかけとなつたのが、二〇〇四年に書籍化され、後に映画化、ドラマ化されてヒットした『電車男』である。この作品の影響で、オタクとはこういう男性のことをいうものなのだ、という認識が広まつた。実際に現在でも秋葉原に行けばこのイメージ通りのオタクを見ることはできるし、テレビなどの「アキバ系男子100人に聞きました」などという企画で放映されるのはまさにこのイメージびつたりの男性たちばかりである。しかし、秋葉原

にいるオタク全員がアキバ系の格好をしているわけではないのは容易に想像できるだろう。秋葉原中にアキバ系の男性がうろついているなど、想像するだけであまりにもおぞましい光景である。実際秋葉原に赴くと、スーツを着たサラリーマンがアニメショップの袋を持っている様子や、イケメンと言われる容姿の男性がメイド喫茶で普通にメイドさん達と会話を楽しんでいる様子が見られる。あくまでも一部のオタクが誇張されて紹介されているだけであつて、実際のオタクは、一概にこういう人だ、とは言えないのである。

腐女子の場合はさらに、見た目では見分けられない場合が多い。男性オタクに比べて女性オタクの存在が世間に知られていない理由はまさにここにある、と考えられる。腐女子は女オタクの一種であるが、腐女子のイメージを聞かれてもアキバ系オタクのような外見的イメージを浮かべられる人は少ないのではないだろうか。腐女子も女性である。個人差はあるが、それなりにファッションには気を遣っている。人前に入る以上、最低限のおしゃれをしなければならない、という常識を身につけているのである。前掲杉浦『腐女子化する世界 東池袋のオタク女子たち』によると、オタクの祭典とも呼ばれるコミックマーケット（通称コミケ）に來場する腐女子を含む女性達は、おしゃれをしてくるものがある。男性オタクの場合は、あまりにも服装を気にしないあまり、その見た目の悪さに「もう少し服装に気を遣ってください」と注意を呼びかけるボランティア活動が行われているほどである。女性オタク達にとっては普通の服装をすることが当たり前なので、「腐女子はこういう格好をしている」などといった画一的なイメージが定着することは在り得ないのである。

また、腐女子は自分が腐女子であることをあまり公にはしたがらない。その理由はオタクという存在の世間的イメージがマイナスであるからだ。わざわざ自分を悪い方向にアピールする必要などない。腐女子は仲間内で楽しむことが出来ればそれで満足なのだが、それ故に、腐女子には新たな仲間を探すのが難しいという問題も出てくる。だが、類は友を呼ぶ、という言葉があるように、腐女子は不思議と同士を感じする能力が高い。オーラとでもいうべきか、ちよつとした言動から「あの人、仲間っぽいな」と感じることができるのである。そして言葉巧みに誘導尋問をすることで、本当に仲間かどうかを見極めるのである。その方法としては、まず好きなマンガを聞くのが定番だろう。「好きなマンガ

とかつてある？」などのように、さり気なさを交えて質問するのである。ここで少年漫画と少女漫画のどちらを答えるかで、ある程度の見当がつく。腐女子の可能性があるのは少年漫画好きである。少女漫画は主に恋愛要素を含んだものが多いため、オタクでなくとも好きで読む女性が多いだろう。少年漫画も最近では尾田栄一郎の『ONE PIECE』が老若男女問わず大流行しているとあつて見極めづらいが、ここで更に一步踏み込んだ質問に入っていくのである。これは私の持論であるが、マンガ好きとオタクの境界線は、マンガそのものが好きなのか、それともキャラクター（キャラ）単体が好きなのか、にあると考えている。作品として好きなかであれば、オタクとは言えない。その場合はそれ以上の詮索をやめて「私も好きだよ。面白いよね〜」などの会話で終わらせてしまえばよい。もしキャラ単体が好きな場合は、更に一步踏み込んだ質問、すなわち、そのキャラのどこが好きなのかを聞いて反応を見るのである。オタクであればキャラを好きになる理由は顔だけではない。「どこのシーンのどういった行動がカッコ良かったから」というこだわりを持つているはずである。ここまでくれば、オタクであると言ってしまうといい部類の人だと判断できるだろう。オタクだと分かれば、あとは「私はどちらかといえば腐女子の方で……」と言い出せば、相手が腐女子だった場合、見事に仲間発見！となるのである。

ボーイズラブのはじまり

腐女子は男同士の恋愛を描いた小説やマンガ等を好んで読む。これらのジャンルは「ボーイズラブ（BL）」と呼ばれている。杉浦由美子『オタク女子研究 腐女子思想大系』によると、ボーイズラブの歴史は遡ること一九七八年。サン出版の編集者が、女性向けのゲイカルチャー媒体の需要があると感じて創刊した『Comic Time』を創刊したのがこの年である。この雑誌は後に『Time』という誌名に変わり、現在も刊行されている。現在約20種類のボーイズラブ系雑誌があるが、『Time』はその中でも際どい性描写が多く、ゲイアダルトビデオの特集などのコーナーもあり、他誌とは一線を引いた印象が強い。

一九八〇年代になると、当時『週刊少年ジャンプ』に連載されていた『キャプテン翼』の影響で、現在のコミケの中

心でもある同人誌ブームが始まる。その中心は、既存の作品のキャラを使って素人が二次創作した小説やマンガである。腐女子は魅力的な男性キャラが二人いればボーイズラブの材料にすることができる。したがって、男性キャラが多く登場する『ジャンプ』は腐女子にとつて最高のキャラ市場であった。『スラムダンク』『幽遊白書』『テニスの王子様』『ONE PIECE』『銀魂』など、歴代のジャンプ作品はいつの時代も同人誌業界の中心である。

一九九〇年代になると、再び商業用ボーイズラブが勢いを増してくる。92年に出版社ビブロスが単行本レーベル「ボーイコミックス」を立ち上げ、93年には雑誌『マガジンBE×BOY』を創刊した。どちらも男性同士の恋愛を描くコミックである。この頃、「ボーイズラブ」というジャンル名が誕生した。それまでのボーイズラブは、「やおい（山なし落ちなし意味なしの意）」や「Tune（ジュネ）」という言葉で呼ばれていたが、商業用雑誌が「ボーイズラブ」という表記を始めたことでその名が定着していったのである。それまで雑誌『Tune』の独壇場であった世界に、ビブロスは全く違った方向から攻めていった。禁断の愛を描いた耽美路線の『Tune』に対し、ビブロスが目指したのは少女漫画を男同士に置き換えたようなライトな感覚だった。明るくてちよつとエッチな少女漫画的な作品を目指したビブロスの方向付けが功を奏し、それまでマニアックな存在でしかなかったボーイズラブを商業化させることに成功したのである。

ボーイズラブのメディア展開

ボーイズラブにおける中心メディアは今も昔もマンガや小説である。ボーイズラブコミックスは雑誌での読みきり作品や短期連載作品を一冊にまとめたものが多い。ボーイズラブの主人公には、少年漫画のような個性はあまり必要とされない。そのため、至つて普通の男子高校生、といった主人公の一話完結の作品が多い。同じ登場人物でシリーズとして続くものもあるが、大抵3巻程度で話がまとまる。人気作品になれば10巻以上続くものもあるが、そこまでの人気を得られる作品は指折り数える程度である。絵柄は様々であるが、連載雑誌によって性描写の加減に差が出ている。キスで終わるものもあるが、基本的には性行為が描かれる。その描き方も、直接的には描かずに雰囲気を感じ取らせる描き

方から、はつきりと下半身まで描いてしまうものまで様々である。

ボーイズラブ小説は、主に文庫で発売される。一冊²⁰⁰ページ前後のものが多く、所々に挿絵が入っているためライトノベルに分類される。マンガに比べ、性描写は長く、挿絵付きで丁寧に描かれている。マンガでは最低限のモザイクやトーンによるぼかしが必要となるが、小説は文章表現が中心のためあまり規制されていない。特徴としては、男性器の言い表し方が間接的であることである。ペニスは「モノ」「昂り」^{たかぶ}、「中心」「欲望」「熱塊」^{あつたい}、「楔」^{くわ}、「アナルは「蕾」^{つぼみ}」「入り口」「中」「双丘の奥」などの表記をすることで、性描写の生々しさを軽減する効果を出しているのである。

ボーイズラブはCD化も行われている。主にコミックスや小説の音声化である。内容は60分程度で、演じるのは男性声優。性行為のシーンには当然喘ぎ声があり、もれなくBGMが入る。元々の作品の登場人物が少ないため、一つの作品で3人だけで芝居が行われるものもある。人気声優が演じることが多く、声優陣は演じることへの恥じらいはあっても抵抗感はないという。

ここ数年大きな伸びを見せているのがボーイズラブ・ゲームである。そもそもボーイズラブ・ゲームが初めて発売されたのは、一九九九年一月に美絵夢／デジタルミッションが発表した『聖バレンタイン学園』とされている。本作は全年齢対象だが、現在PCソフトのボーイズラブ・ゲームの大半はR18、いわゆる18禁である。18禁ボーイズラブ・ゲームが初めて発売されたのは、一九九九年九月に発表されたユニゾンシフトの美少女ゲーム『Be-Reave PRIMARY』に収録された「もう待てないって!」とする説と、二〇〇〇年八月、ユニゾンシフトの妹ブランド、プラチナレーベアの『好きなものは好きだからしょうがない!! FIRST LIMIT』とする説がある。だが、『Be-Reave PRIMARY』はオムニバス形式で「もう待てないって!」以外は通常の男性向けPCゲームであるのに対し、『好きなものは好きだからしょうがない!!』は男女の性描写を含まない完全女性向けゲームとして作られているため、後者を初の18禁BLゲームとする場合が多い。

ボーイズラブはさらに、ここ三年ほどの間に地上波アニメ化を遂げた。これまでもOVA（オリジナル・ビデオ・アニメ）というかたちで、初めからDVDで発売される作品はあったが、ついにボーイズラブもここまで展開してきたか、

というのが正直な感想である。さらに、性行為シーンこそないものの実写映画化や舞台化もされるなど、ボーイズラブのメディア展開の早さには驚かされる。好きな作品が様々なメディアへ展開していくことは一ファンとして喜ばしいことではあるが、展開すればするほどその作品へ費やすお金もかかってしまうのが悩みどころである。

ボーイズラブと性

ボーイズラブと性。それは切っても切れない関係にある。ボーイズラブを描く上で、性描写は必要不可欠である。多くの腐女子はボーイズラブに性描写を求めている。

性描写、と一口に言っても、その表現は多種多様である。モザイクやトーンで一部を隠すだけで、行為を直接的に描く作者もいれば、敢えて下半身を描かずにキャラの表情で表現する作者もいる。近年では性行為に至らないボーイズラブ作品も増えてきており、純粋に男性同士の恋愛物語を読みたいという腐女子に支持されている。

腐女子はボーイズラブにどのような性描写を求めるのか。前掲大崎『腐女子のことば』には、昔はボーイズラブ作品を描く作家に男同士のセックスに関する知識が足りなかつたため、受けが攻めを受け入れる部分が攻めに触られただけで濡れてくるという人体構造上在り得ない表現も多々見られた、とある。時代が進み、インターネットなどを介して男同士のセックスが本当はどういうものなのかを調べられるようになり、男同士のセックスではローションなどの潤滑剤が必須であることを作家も読者も理解したのだそうだ。だが性描写がリアルになったとはいえ、ボーイズラブに完璧なリアルは必要ない。アナルセックスならば受け入れ側は相応の下準備が必要であるとか、病氣予防のためにもコンドームは不可欠等々、上手く描かないと読者を萎えさせてしまうような内容はあまり描かれない。その結果、ボーイズラブにおけるリアルの追求は「前立腺」と「乳首」という新たなアイテムを生み出した。前立腺は「受けが後ろの刺激だけで達してしまう」便利な場所である。男性のみにしかないという点もい。乳首は、女性にとつてはアナルやペニスに比べ、親しみのある部位であることから、男性も感じる場所になるのであればこれを描かないわけにはいかないのだ。受けキャラの中には、乳首で感じてしまうことを恥じらう様子がよく見られ、読者はそんな受けの反応に萌えるの

である。

ボーイズラブにおけるプレイ内容は実に多彩である。アダルトグッズを使ったプレイも、鬼畜攻めによるS Mプレイも、コンドームを使わず受けの中で達することも、野外での性行為も、何でもありと言ってしまうもいいほどである。腐女子は、ボーイズラブを読んで萌え、興奮する。しかし、その興奮は男性がアダルトマンガを読んで覚えるものとは全く別物である。男性がアダルトマンガに求める性描写は、自慰行為のためである場合が多い。性的興奮を覚えるためにアダルトマンガを読むのだ。そのためストーリーは重視せず、性描写そのものを楽しむのである。これに近いのがレディースコミック（レデイコミ）と呼ばれるジャンルである。『オタク女子研究 腐女子思想大系』によると、一九八〇年ごろに大人の女性向けマンガ雑誌が刊行され、大人の恋愛を描くことからセックス描写があるのは当然である、と初めて女性向けマンガで性行為が描かれた。この頃はストーリー中心のドラマじみた内容だったが、一九八五年くらいから中小企業がエロ描写を主体とした雑誌を刊行し始める。これらをレデイコミという。レデイコミの主な主人公は主婦。テーマは「嫁姑」「不倫」などといった、生活感溢れるものが多い。専業主婦の家にいきなり強盗が押し入り、無理やりレイプというような内容が中心で、夫婦間の愛に溢れた純愛物語は描かれない。読者層である40代女性の願望や妄想をかたちになっているのだそうだ。

一方、ボーイズラブは、性描写こそあるものの、根本にあるのは「恋愛」である。少女漫画の同性愛版、とでもいえるだろうか。もともと、近年では少女漫画も性描写の激しいものが増え、ボーイズラブを読むより恥ずかしいと感じてしまうような少女漫画もある。ボーイズラブのほうもその内容は幅広く、核ともいえる性描写も濃い（激しい）ものから薄い（健全な）ものまで様々である。コミックスや小説の表紙というのは、ボーイズラブに限らず読者の目を引くための努力や工夫が詰まった珠玉の一枚で、魅力あるキャラクター、作品内容の伝わりやすさ、それらを凝縮した表紙イラストは、まさに作品の顔といえる。故に、ボーイズラブ作品の表紙は、主人公の2人が抱き合っているイラストが断トツで多い。内容の濃さと表紙の過激度は比例している。健全志向でほのぼのとした内容の作品は、仲のよさそうな男子2人が並んでいるだけのイラストだが、性描写の多い作品では表紙も妙に肌色とピンクが多用され、露出も多く、抱

き合うというよりは絡み合っている。ボーイズラブを知らない人が見ても、どちらが過激な内容なのかは一目瞭然である。だがしかし、ボーイズラブの性描写はあくまで愛情表現のための性描写なのである。このことはいくら強調してもしすぎることはない。愛のないボーイズラブはボーイズラブではない、と言っても過言ではなく、性描写があるからエロマンガ、という単純な考え方は、ボーイズラブには当てはまらないのである。

二 「ボーイズラブ」および「腐女子」に関するアンケート調査

今回、宮城学院ならではの卒業論文を指すため、日本文学科の二、四年生を対象に、「ボーイズラブ」および「腐女子」に関するアンケート調査を行った。その結果、121名の学生から回答を得た。これは日本文学科の学生数（二〇一〇年度の在籍者数491名）の約25%に相当する。このうち、自分を腐女子と認める者56名、非腐女子とする者65名であった。この結果から、日本文学科における腐女子率は46%となった。他学科から見ても意外な結果であった。普段からオタクっぽい学生を目にしているため、予想では7割近くの腐女子がいると思っていたのだが、このアンケートは「オタク」ではなく「腐女子」に限定して調べたので、このような結果になったのだろう。とはいえ、腐女子率46%ということは、（あくまで計算上の数値だが）実人数に換算して200名以上の腐女子が日本文学科にいるということであり、それはそれで驚くべき結果といえよう。

以下、アンケートの内容を腐女子と非腐女子に分類した上で、詳細を報告する。筆者としては、このアンケート結果を元に、日本文学科の腐女子が求めるボーイズラブの「王道」とは何か、腐女子にはどんな悩みがあるのか、また腐女子・非腐女子それぞれから見た腐女子像などについて考察していきたい。

アンケート結果について（その1〜腐女子編）

アンケートは匿名で行われた。問5までは全員に回答してもらい、問5「あなたは腐女子ですか？」において「はい」を選んだ自称腐女子56名の回答を以下にまとめた。

問1 あなたは「ボーイズラブ（BL）」というジャンルを知っていますか？

A 知っているし持っている：41名、B 知っていて読むけれど自分では持っていない：15名、C 知ってはいるけれど読んだことはない：0名、D 読んだことはあるけれど興味はない：0名、E 知らないし読んだこともない：0名

問2 BL作品を読んだことはありますか？

A 自分で買って読んでいる：40名、B 友達や貸本で借りて読む：15名、C 強制的に読まされた：1名、D 読んだことがない：0名

問3 あなたは「腐女子」という言葉を知っていますか？

A 知っている：56名、B 知らない：0名

問4 BLとは男の子同士の同性愛作品（漫画や小説など）ですが、読んでみたいですか？

A ぜひ読んでみたい：45名、B ちよつと読んでみたい：9名、C あまり読みたくない：2名、D 絶対読みたくない：0名

問5 あなたは腐女子ですか？

A はい：56名（↓問11）、B いいえ：0名

問11 あなたの腐女子度は何パーセントですか？

0〜10%：3名、11〜30%：5名、31〜50%：7名、51〜70%：6名、71〜90%：14名、91〜100%：15名、101%：6名

問12 腐女子歴何年ですか？

0〜1年…1名、2〜3年…3名、4〜5年…14名、6〜9年…23名、10年以上…15名

問13 主に読む（聴く・観る）のは何ですか？ 多い順に3つまで選んでください。

A 漫画…53名、B 小説…44名、C ドラマCD…19名、D ゲーム…14名、E アニメ…11名、F 実写…4名、G 自分で創作…11名

問14 問13で答えたメディアの所持数を教えてください。

漫画 0冊…18名、1〜10冊…19名、11〜30冊…9名、31〜50冊…3名、51〜70冊…1名、71〜100冊…2名、101

〜200冊…1名、201冊以上…2名、数え切れない…3名

小説 0冊…27名、1〜10冊…15名、11〜30冊…7名、31〜50冊…3名、51〜70冊…0名、71〜100冊…1名、101冊以上…1名

ドラマCD 0枚…43名、1〜3枚…5名、4〜5枚…4名、6〜10枚…2名、11〜20枚…0名、21〜30枚…0名、31枚以上…1名

ゲーム 0本…41名、1本…1名、2〜3本…6名、4〜5本…3名、6〜10本…3名

問15 どのようなタイプの作品が好きですか？（3つまで選んでください）

A 純愛（甘々性描写あり）…42名、B 健全（性描写なし）…5名、C 切ない系…21名、D 鬼畜・強姦・陵辱系…22名、E コメディ…28名、F エロエロ…19名、G シリアス…13名、H その他…6名

問16 好きな時代設定は？（3つまで選んでください）

A 現代…55名、B 昭和…4名、C 大正・明治…27名、D 江戸…24名、E 戦国…35名、F 平安…9名、G 未来…1名

問17 好きな職業の組み合わせは？【攻め×受け】で自由に3つまで書いてください

高校生×高校生…27名、教師×高校生…13名、高校生×教師…10名、上司×部下…7名、従者×主人…5名、部下×上司…5名、先輩×後輩…5名、サラリーマン×サラリーマン…3名、年下×年上…3名、医者×患者、大

学生×高校生、主人×従者、教師×教師、兄×弟、弟×兄、中学生×中学生、後輩×先輩、社長×秘書、チャラ男(ヒモ)×会社員、忍者×忍者、マフィア×マフィア：以上各2名、サラリーマン×高校生、家庭教師×高校生、医者×サラリーマン、医者×医者、医者×研修医、高校生×中学生、大学生×教師、芸能人×一般人、中年×中年、カタギ×ヤクザ、サラリーマン×ヒモ、サギ師×警察、社会人×ニート、大学生×保育士、保育士×園児(健全)、アイドル×芸人、歌舞伎立役×女形、社会人×小学生、小学生×小学生、小学生×社会人、ホスト×サラリーマン、不良×優等生、貴族×孤児、情報屋×取り立て屋、王子×騎士、小学生×爺さん、営業課長×庶務課長、背番号5(2)×9(4)、美形×平凡、僧侶×貴族、社会人×大学生、フリーター×サラリーマン、客×陰間、執事×貴族、ヤクザ×ヤクザ、獣×少年、不良×ツンデレ、ホームレス×ヤンデレ金持ち、客×喫茶店マスター、エンジニア×ヤンキー、王×他国の王子、将×捕虜、パイロット上司×パイロット新人：以上各1名

問18 好きなカップリングの年齢設定は？【攻め×受け】で3つまで選んでください

A ショタ 10代前半 B 10代後半 C 20代前半 D 20代後半 E 30代 F 40代以上
 B×B：21名、C×C：15名、C×B：12名、D×B：9名、D×C：8名、E×E：7名、C×A、B×C、
 B×D、C×E：各6名、C×D、E×B、E×C：以上各5名、B×A、D×D、E×F：以上各4名、C×
 F、D×E、D×F、E×D、F×F：以上各3名(以下略)

問19 萌えるもの全てを選んでください。

A 幼馴染：40名、B 主従関係：45名、C SM：11名、D ツンデレ：37名、E ヘタレ攻め：40名、F 強気受け：28名、G 鬼畜攻め：27名、H 誘い受け：26名、I 攻め×攻め：19名、J 擬人化：26名、K 制服：39名、L メガネ：33名、M 大人のおもちゃ：20名、N コスプレ：18名、O 三角関係：21名、P その他(ギャップ、年下攻め：以上各2名、おやし受け、ヤンデレ、カニバリズム、葉、痴漢、無表情受け、スーツ、スーツ+メガネ、ワンコ、シヨタ攻め、総愛され、男前受け、獣化、年下攻め、白衣+メガネ、妖怪、オッサンさえいればいい、ヤクザ、

拷問、獣姦、スカトロ、バーテン服、天然、愛ある鬼畜攻め、けなげ受け、不良攻め、兄弟(双子)、受けに見える攻め、美人受け(攻め)、過去有り、無気力デレ、デレデレ、両性具有、王・王子・貴族などの高貴な身分
：以上各1名

問20 オススメのBL作品を教えてください(雑誌も可)。

純情ロマンチカ：6名、ラッキードッグ1(ゲーム)：5名、Sweet Pool(ゲーム)：3名、同級生(ゲーム)

：3名、Lamento(ゲーム)：2名、咎狗の血(ゲーム)：2名、学園へヴン(ゲーム)：2名、鬼畜眼鏡(ゲ

ム)：2名、セブンデイズ：2名、中村明日美子作品：2名

問21 腐女子であることを周りに公言している。

はい：29名、いいえ：27名

問22 二次元にしか恋心を持ってなくなってきた。

はい：13名、いいえ：43名

問23 彼氏がいる。

はい：11名、いいえ：45名

問24 (問23で「はい」と答えた方のみ) 彼氏に腐女子であることを言っている。

はい：4名、いいえ：7名

問25 男同士が楽しそうに話しているのを見ると興奮してしまう。

はい：21名、いいえ：35名

問26 腐女子を卒業する日がくると思う。

はい：19名、いいえ：37名

問27 腐女子のあなたが考える腐女子像とは？(自由記述。具体的な回答については後述)

問28 腐女子であるが故の悩みはありますか？(自由記述。同右)

アンケート結果について（その2）非腐女子編

次に問5において、自分は腐女子ではないと答えた65名の回答をまとめた。

問1 あなたは「ボーイズラブ（BL）」というジャンルを知っていますか？

A 知っているし持っている：4名、B 知っていて読むけれど自分では持っていない：8名、C 知ってはいるけれど読んだことはない：37名、D 読んだことはあるけれど興味はない：13名、E 知らないし読んだこともない：3名

問2 BL作品を読んだことはありますか？

A 自分で買って読んでいる：2名、B 友達や貸本で借りて読む：13名、C 強制的に読まされた：13名、D 読んだことがない：37名

問3 あなたは「腐女子」という言葉を知っていますか？

A 知っている：57名、B 知らない：8名

問4 BLとは男の子同士の同性愛作品（漫画や小説など）ですが、読んでみたいですか？

A ぜひ読んでみたい：2名、B ちよつと読んでみたい：17名、C あまり読みたくない：29名、D 絶対読みたくない：17名

問5 あなたは腐女子ですか？

A はい：0名、B いいえ：65名

問6 腐女子が腐女子であることを公言することに対してどう思いますか？

A 隠した方がいいと思う：10名、B 隠す必要は無い：14名、C 別に：：41名

問7 腐女子と友達になれますか？

A 既にいる：35名、B なれると思う：8名、C 場合または相手による：20名、D なれない：2名

問8 (問7でAと答えた方のみ) その友達が最初から腐女子だと分かっている友達になりましたか？

Aはい…9名、Bいいえ…26名

問9 (問7でAと答えた方のみ) 腐女子の友達とはB Lの話をしめますか？

Aする…7名、B一方的にされる(聞くだけ)…9名、Cしない…19名

問10 (問7でDと答えた方のみ) もしあなたの友達が腐女子だとカミングアウトしてきたらどうしますか？

A今まで通り付き合う…0名、B少し距離をおく…2名、C友達付き合いをやめる…0名

三 考察

アンケート結果から読み取れること(その1)腐女子編)

まずは腐女子の回答から見ていこう。

問1、問2ではボーイズラブ作品の読書経験と所持率を調べた。その結果、当然ではあるが腐女子全員がボーイズラブの読書経験があり、8割の腐女子は自分でボーイズラブ作品を所持していることが分かった。電子書籍はまだ歴史が浅いことや、どちらかというと10代の腐女子を中心に好まれる傾向があるため、ボーイズラブ作品は書籍で所持している学生が多いようである。また、ボーイズラブを借りて読む人たちもいる。一番身近で借りやすい相手は友人だろう。貸す側も、オススメの作品を貸して感想を言ってもらえると嬉しいし、袋に入れて貸し借りすれば周りに知られることもなく、恥じらいを感じることもない。

問4でCの「あまり読みたくない」を選択した学生が2名いる。これは恐らく腐女子というよりはオタク気質が強いのだろう。ボーイズラブを読むには読むけれども、自分で買ってまで読みたいとは思わない、そういう自称腐女子もいる、ということが分かる。

問11の回答を見ると、日文科の腐女子度は大体70〜100%の間に集中している。予想では、「腐女子」と答えた人の半

数近くが100%と答えるものと考えていたが、この中で100%以上と答えたのは13名(腐女子全体の20%)だけであり、日文科の自称腐女子の多くは、自身の腐女子度を100%未満と考えていることが分かる。

この点について、問11(主観的腐女子度)と問12(客観的腐女子歴)の相関性をまとめてみた。

《腐女子度》 《腐女子歴》

0 ~ 10 %	5年…2名	9年…1名
11 ~ 30 %	3年、4年、5年、7年、12年…各1名	
31 ~ 50 %	5年…2名	3年、4年、7年、9年、10年…各1名
51 ~ 70 %	7年…2名	1年、6年、8年、10年…各1名
71 ~ 90 %	5年…5名	10年…3名 3年、6年、7年、8年、9年、12年…各1名
91 ~ 100 %	10年…5名	6年…3名 8年、7年、5年…各2名 11年…1名
101 % ~	8年、10年…各2名	7年、9年…各1名

まず気になったのは腐女子歴の平均年数である。日文腐女子の平均腐女子歴は7年で、現在20歳として計算すると、多くの人は中学生のころから腐女子であると自覚していることになる。

7年という、決して短いとはいえない年月の中で、常に100%腐女子でいる人は少ないであろう。実際私も現時点で自分の腐女子度を見積もると、多くても70%程度だと考える。その理由は、自分の腐女子全盛期が高校生のころだったと感じるからである。私の高校時代は日常的にBL小説を読み、学校にボーイズラブコミックスを持って行き友人に貸し出し、登下校中にボーイズラブのドラマCDを聴くという腐女子全開な日々だった。周りに腐女子友達が多かったこともあり、放課後に語り合うこともしばしばあった。そのころを仮に100%とするならば、今の私では到底あのレベルには及ばない。もちろんボーイズラブに飽きたわけではなく、現在も好きな作家のコミックスが出れば新刊で購入しているし、アルバイトで収入が増えたことによりアニメDVDを買ったりもしているが、高校時代に比べて腐女子友達が減ったこともあって、個人的にコミックスを読んで楽しむ程度に落ち着いている。

このように、過去に100%の時期があったから今は100%未満、という考え方の学生は他にもいるようで、アンケートの腐女子度回答欄にも「昔は100%」と書いている学生が数人いた。

ちなみに、問14で各メディアの所持数を尋ねたが、その回答からも今述べたような傾向が読み取れる。「捨ててしまった」「売り払った」と書いている学生が四年生を中心に数人いた。四年生は全体的に腐女子歴が長く、10年以上腐女子であると答えた学生の数は最も多かった。10年も腐女子をしていれば好みも変わるだろうし、飽きも出てくるだろう。

はじめは、腐女子歴が長くなるほど腐女子度も上がっていくものと予想していたが、いったん腐女子としてのピークを迎えてしまうと、そのまま100%を維持することは難しいようだ。腐女子度100%の人に比べて70%だから未熟、なのはなく、100%の自分が過去にいたから今は70%に落ち着いている、という腐女子が大半のようである。

問13では、ボーイズラブをどのようなメディアで視聴しているのかを尋ねた。多いと予測される順に選択肢を並べたが、予想が外れたのはGの「自分で創作」が多かった(11名)ことである。日本文学科は他学科に比べて比較的読書量の多い学生が多く、文章や絵を創作することに対しても抵抗感が少ない。マイナーなジャンルの作品は数に限りがあるため、ないならば自分で作ってしまえばいい。いかにも日本文学科らしい考え方である。

では、腐女子はボーイズラブにどのようなストーリーを求めているのか。

腐女子が求めるボーイズラブの「王道」

腐女子が好む男同士の恋愛ストーリーは、出会いに始まり、紆余曲折を経て、ハッピーエンドに向かっていくというもので、要所要所が決まっているため、話の流れに大きな変化がつけにくい。だが、そうした「王道」を踏まえた上でいかにオリジナリティを出すかが人気作品の核となる。

アンケートの問15から問19までの回答から、日本文学科の腐女子が求めるボーイズラブの「王道」について考えてみよう。

まずは問15。これはやはりAの「純愛（甘々性描写あり）」が断トツで多かった。好きな順に3つまで選んでもらったが、ほとんどの学生がAを選んでいった。Bの「健全（性描写なし）」の得票数から見ても、やはり腐女子はボーイズラブに性描写を求めていることが分かった。とはいえ、先に述べたように、ボーイズラブにおける性描写は男性向けアダルトマンガなどの性描写とは意味が違う。エロスや快樂的志向のための性描写ではなく、あくまでも愛情表現のひとつなのである。ただ性行為が描かれていなければいいわけではない。杉浦由美子の『腐女子化する世界 東池袋のオタク女子たち』も、「腐女子が求めるのは「物語」であり、あくまでも「物語」の中に性描写が入ることを求めている。結局女性が求めるのは「恋愛の物語」で、男性同士という前に、同性愛というかたちが重要であったのだ」と述べている。極端な話、男性向けアダルトマンガでは、主人公が偶然レイプされ、「レイプされちゃったけど気持ちよかった」という終わり方でも作品として成り立つかもしれないが、ボーイズラブではそうはいかない。レイプシーンがあるならば、レイプから助けた相手と恋に落ちたり、後でレイプ犯と別のかたちで知り合つて恋に落ちるなど、その後のストーリーを展開させるための配慮や工夫が必要となる。ボーイズラブの性描写は、主人公2人の恋愛を発展させるための必須アイテムなのである。様々な困難を越えて結ばれた2人が、身体を重ね合わせることで互いの愛情を深く感じ取ることができるのである。商業用のボーイズラブコミックスに年齢制限がないことも、こういった理由が関係していると考えられる。

次に問16は、これも予想通りAの「現代」が群を抜いて多かった。商業用BL作品のほとんどは現代を舞台にストーリー展開されており、登場人物も高校生や教師、サラリーマンなど実際に存在する職業がメインである。あまりファンタジーな内容よりも恋愛の展開に共感しやすく、リアルでありながら夢も見られる、ちょうどいい距離感を持った設定なのだと思われる。これに対して、Eの「戦国」時代人氣は昨今の歴女などによる戦国ブームの影響と考えられるため、数年後にアンケートを取ればまた違った回答になると考えられる。

次に問17だが、最も多かったのは「高校生×高校生」の組み合わせだった。これに「幼馴染」「長年の片思い」「数年ぶりの再会」「突然の同居生活」などの要素が加わることで、2人の関係性に深みが出る。いま述べたように、ふだん

見慣れない特殊な職業よりも、リアリティのある登場人物の方が日常を舞台にストーリー展開ができるため人気が出やすい。特に、女子大生にとつて高校生というのはいへんリアリティがあつて身近な存在だが、舞台が男子校であつたり、臨時教師が無駄にイケメンだったり、保健医が男性だったりするなど、ちよつとした非日常的な仕掛けが入ること、ボーイズラブの世界観が成り立つ。リアルな職業設定と、非日常的な舞台、この組み合わせが作品全体に程よいフィクション感を持たせてくれるのである。読者のほとんどは女性のため、男子校、男子寮、全寮制など、実際に読者自身が経験することが不可能な舞台設定の方が好きなように想像できるのだ。

アンケート調査では、こうしたリアリティを求める傾向が強い一方で、個性溢れる回答も目についた。自由記述ならではの回答を余すことなく並べてみたが、私にも理解し難いカップリングも多数見られた。人気第2位の「教師×高校生」や第4位の「上司×部下」などは、立場的上下関係が受け攻めにそのまま現れている。偉いほうが攻め、身分の低いほうが受けである。それに対し、「高校生×教師」や「従者×主人」、「部下×上司」は「年下攻め」や「下剋上」萌えに好まれた結果だろう。基本的に攻めキャラは強気な俺様タイプなので、「高校生×教師」の場合、不良を束ねるボスの存在の高校生と、赴任したてで自信のない新米教師、などのような役柄設定になる。もしくは、普段は大人しく成績優秀な生徒が、教師の前では態度が豹変し鬼畜キャラになる、という設定もありうる。本来ならば立場的に優位の者が受けに回ることで、立場が逆転し、萌えが生まれるのである。

問18でも、「10代後半×10代後半」「20代前半×20代前半」「20代前半×10代後半」が多かった。高校生、大学生、教師（大抵若い）といった人物像を想定しての回答だと考えられる。

問19では、多少のばらつきはあるものの、ほとんどの学生が5つ以上を選んでいたこともあつて、それぞれがある程度の票数を獲得している。中には「全部」と書いた上に、さらに「その他」で具体的な回答をしてきた学生もいた。

問19は基本的に共感を得やすいと思われる萌え選択肢を用意したが、40名以上に支持されたA「幼馴染」、B「主従関係」、E「ヘタレ攻め」の人気はさすがである。AとBはそれぞれ受け攻めの関係性に関する項目であり、人気の理由は先ほど説明したように役柄設定による萌えだろう。Eの「ヘタレ攻め」は受けのことが好きで好きでたまらないの

に、恋愛に対して積極的に出られない攻めを意味する。本来の攻めのあるべき姿とはまるで逆だが、昨今流行の草食系男子効果もあつて、現実の男女関係を投影するようなヘタレ攻めの存在が受け入れられるようになった。33名に支持された「メガネ」も、キャラ属性のひとつである。元々は「メガネっ娘」などのように、男性向けキャラの属性であったが、韓流ブームによつて、それまでダサさの象徴でしかなかったメガネはおしゃれアイテムとして認知されていった。ちなみにメガネと組み合わせられて好まれるのがスーツや白衣である。これらのアイテムを組み合わせることで、腐女子の萌えは2倍、3倍と大きくなっていくのだ。

問19の回答を見てもらえば分かると思うが、問17と同様、「その他」のこだわりが非常にマニアックなものが多かった。私自身も初めて聞く用語があるくらいである。日本文学科の腐女子はマイナー路線へのこだわりが尋常ではない。これらの回答を総合すると、日本文学科の腐女子が求めるボーイズラブの「王道」は、「現代もの」で、主人公は「高校生〜20代」の設定、ストーリーは「主従関係またはヘタレ攻め」で「純愛の性描写有り」となる。商業用ボーイズラブ作品にはこれらの条件に当てはまる内容の作品が多数ある。アンケートには一部マイナー萌えも見られたが、日文科の腐女子と世間一般の腐女子が求めるボーイズラブ像とはあまり大きな差はないと言つていいだろう。

腐女子の実像

問21から問26までは、腐女子が周りの人に対してどのような行動を取っているか、また腐女子ならではの体験などについて調査である。

問21の回答はほぼ半々であった。オタクが多いと言われる環境でも、腐女子であることは隠しておきたいと思う腐女子が半数もいることに驚いた。私の場合、自らアピールはしないが、聞かれれば隠さずに腐女子だと宣言するようにしている。

問22は、腐女子をはじめとしたオタクが一時的にハマつてしまう「罨」である。あまりにも魅力的なキャラクターに出会うと、現実の恋愛などどうでもよくなり、そのキャラクターに愛を注ぐことにのみ全力を尽くすのである。もしくは

は現実で恋愛のチャンスに恵まれないため、現実逃避の意味で「はい」を選んだ腐女子もいると考えられる。

これに対して問23は、「腐女子やオタクは恋愛なんてしない」という一般イメージを検証するための質問である。1対4の割合で恋人がいない腐女子が多数という結果となったが、決して腐女子であるから恋愛ができない、というわけではない。これに連動するのが問24である。彼氏という、友人以上に身近で大切な存在に、自分が腐女子であることを告げているのか、いないのか。彼氏がいると答えてくれた11名のうち、腐女子であることをカミングアウトしているのは4名だけであった。やはり、オタクに対するマイナスイメージが強いため、もしバラして嫌われてしまったらどうしよう、と考えてしまい、隠したまま付き合うのだそう。私の場合は、趣味は趣味なのだから、共感してもらえなくとも、せめて理解してもらえればそれで構わないと考えている。自分の好きなものを隠したまま付き合うというのは精神的につらいからである。幸い理解してもらえたのでこの卒論のことも話してはいるが、もちろん強制はしない。私個人が楽しめればそれで十分であるし、腐男子でもない男性にボーイズラブをつきつけるのは拷問に近いだろう。

問25も問22と同様の腐女子の「あるある」ネタである。ボーイズラブ作品は実写映画化などによって三次元化もしてはいるが、大抵の腐女子はボーイズラブは二次元の中の世界であって欲しいと願っている。なお、この質問の「興奮」は、その男性2人を脳内で妄想することによって発生する興奮であるため、決して腐女子が男性2人組を見ただけで興奮するような生き物ではないことは知っておいてもらいたい。

問26は、ある種の願望を込めた質問である。過去にピークを迎えた腐女子であれば、このまま年月が経つとともにボーイズラブへの興味も薄れていく可能性もある。しかし、ボーイズラブは抜けようと思つて抜けられる世界ではない。この世界でしか味わえない萌えがあまりにも多過ぎる。その上このジャンルの伸張はとどまることを知らないから、たとえそれまでハマっていた作品に飽きても、次の作品、すなわち次の萌えがすぐそこに待機しているということになる。腐女子は腐女子であることから、ついに逃げられないのだ。最近では、親子でボーイズラブを読むという時代に入っているらしい。未恐ろしい世の中である。

腐女子ゆえの悩み

このアンケートでは、問27と問28で腐女子であることの悩みと日常生活の中で腐女子だと自覚してしまう出来事について自由記述してもらった。その中から多数票を獲得した意見を紹介しておく。

「お金が足りない」

これは私も共感できる。趣味を持つと何かと費用がかかるというが、腐女子も例外ではない。マンガ一冊600円程度とはいえ、月に5冊も買えば三千元。好きな作品のドラマCDが出ようものならば3枚も買えば一万円が瞬時に消えてしまう。ゲームも昔に比べて異常な速さで売り出され、人気が出たゲームは他のゲーム機器でも遊べるようになると移植されてリニューアル販売、などということもよくある。ゲームを購入する際に何よりもオタク心理のツボを突いてくるのはオマケ（特典）である。初回版にのみ特典ドラマCDがついてきたり、予約する店によって特典内容が変わったり、コレクター魂をくすぐるオマケが盛りだくさんなのだ。ゲームを購入するのは大学生や社会人の腐女子が中心であるため、多少高くとも初回版を買いたい、と思わせる巧妙な心理作戦である。だが、好きな作品を愛する気持ちがどんなに強くても、お金がなければ手に入れることはできない。上手にやりくりしていく術を身につけなければならないのである。

「収納場所に困る」

ボーイズラブは内容が内容だけに、家族には見られたくないと思う腐女子が多いだろう。特に同人誌などの18禁本は、男性で言えばエロ本と同じである。部屋に堂々と置いておくべきものではない。本棚にカーテンをつけたり、棚の奥にボーイズラブを並べ、その手前に健全な少年漫画を並べる、などといった方法が基本的な隠し方である。

「マナーのない腐女子が多い」

これも共感できる。仲間同士でボーイズラブを語り合う楽しさはよく分かるが、普通のテレビドラマについて語り合うのとはわけが違う。語り合うならば、せめて公共の場所は控えてもらいたい。非腐女子からも、「バス停でボーイズラブを語るのはやめてほしい」との意見が多数あった。腐女子たる者、もう少し時と場合を考えて腐女子トークに華を咲かせてもらいたいものである。

「妄想が止まらない」

これは多くの腐女子が悩んできたことだろう。例えば、某ネズミキャラクターの夢の国で、男性2人が手をつないで歩いていたら、などというような現場を見てしまったとしたら…、腐女子の脳内ではたちまち妄想が沸き起る。2人はどんな関係で、今日は何回目のデートで、この後は…、と勝手に妄想してニヤニヤしてしまうのだ。仲の良い男子2人が楽しそうに話してれば、実はあの2人はお互い片思いで、いつか結ばれて…と、妄想のきっかけはほんの些細なことと構わないのである。腐女子は女性特有の想像力の強さを妄想というかたちで最大限に発揮しているのだ。

「男性を『可愛い』とってしまおう」

これは草食系男子などの性格やしぐさの可愛さではなく、単純に顔の可愛さのことを言っている。イケメンにもいろいろなタイプがいるが、腐女子は童顔や目のぱっちりした「受け顔」のイケメンに対し、「可愛い」と感じてしまうのである。そもそも外見で「受け」だと判断した上での萌えであるが、これで中身も可愛らしい場合は、完全に「受け」認定されてしまう。

「宮城学院が共学でないこと」

女子大だからこそ教室で腐女子トークができる利点もあると思うが、それでもやはり身近な萌えを探したいと思ってしまうのが腐女子である。私も高校三年生のクラスにイケメンが多く、見ているだけで癒されたものであった。

以上のように、腐女子は様々な悩みを抱えて生きている。しかし、心のどこかでそんな悩みを楽しんでいるようにも見える。趣味を楽しむことはいいいことだが、それなりにマナーとけじめを守った腐女子ライフを送りたいものである。

アンケート結果から読み取れること（その2）非腐女子編

以下、アンケートの問5で「腐女子ではない」と答えた65名の回答をまとめた。

問1、問2では、CDEあたりの選択肢に票が集まると考えていたが、やはり周りに腐女子が多い環境のせい、腐女子ではなくともボーイズラブ作品を読んだことがある学生もいるようだ。問3でも、腐女子という言葉の認知度はか

なり高く、これも周りの影響であると考えられる。問4ではBの「ちよつと読んでみたい」を選んだ学生が17名いることから、腐女子でなくともボーイズラブへの興味をそえられるものと読み取れる。ただ単に興味本位なだけの可能性もあるが、周囲に腐女子が多いせいでボーイズラブに対して抵抗感が少ないのではないだろうか。

問6では、腐女子への関心の高さを調査した。Cの「別に……」(by 沢尻エリカ)が半数以上の票を集めていることから、非腐女子はあまり腐女子に対して関心がないことが分かる。問7でも、Aの「既にいる」は周りの環境が原因だと考えられるが、注目すべきはCの「場合または相手による」を20名が選んでいることである。まずは様子見、とでも言ったところだろうか。

問8では、腐女子の友達がいる非腐女子の半数以上が、「初めからその友達が腐女子と知っていたわけではない」と答えている。後から知った以上、腐女子だから友達をやめる、とはならないだろうが、問9で腐女子の友だちからボーイズラブの話を「一方的にされる(聞くだけ)」と答えた学生の多くから、そういった話は仲間内だけでやって欲しい、との意見が出ている。腐女子の皆さんは非腐女子に対する配慮が必要である。

その他、非腐女子の方々に、腐女子に言いたいこと、腐女子についてどう思っているかなどの自由記述のスペースを設けたところ、記述してくれた学生のほとんどが同じ意見であった。それは「ボーイズラブが好きなのはその人の趣味であるから、その人の好きにすればいい。しかし周りに迷惑をかけるのはやめて欲しい」ということである。

非腐女子から、ボーイズラブや腐女子そのものを否定する意見はなかったが、教室内やバス停、駅のホームなど、公共の場で堂々と語り合う姿を見ると気分が悪くなる、という意見が非常に多かった。聞きたくなくても自然と聞こえてきてしまうので不愉快に感じる、周りに聞かれて恥ずかしいと思わないのか、自重することを覚えて欲しい、などの厳しい意見も多数あった。

しかし、このように感じているのは非腐女子だけではない。腐女子の側からも最近マナーのない腐女子が増えていることへの危惧がある。そうした視線に気づくことの出来ない一部腐女子のせいで、腐女子全体のイメージが悪くなってしまうのである。心当たりのある腐女子の皆さんは、今後は声のボリュームを少し下げたり、空き教室を探した

り、マナーを守った腐女子トークができるよう心がけていた。きたい。

おわりに

題目決定当初は、本当にこの論文内容で書いて大丈夫なのだろうかと不安に思っていたが、限られた文献の中には自分自身腐女子として生きてきたこれまでの経験を思い出させるような内容が溢れていた。アンケートは、配布した枚数の半数程度しか回収できていない。きつとふざけた内容だと、相手にもされなかったのだろう。卒論自体を否定する意見も返ってきた。しかし、こうして協力してくれた¹²¹名の日本文学科の方々のおかげで、腐女子と非腐女子、それぞれが考える腐女子の在り方が見えてきた。この卒業論文を通して、私自身改めて腐女子という存在と向き合うことができた。腐女子でありながら、第三者の視点で腐女子を見ることで、非腐女子の考え方に深く共感することも多々あった。また、当たり前だと思っていた言葉が専門用語であったり、私にとって何気ない言動がとりもなおさず腐女子であることを証明していたり、何かと自分自身を振り返るいい機会になった。ゼミでの意見交換は非常にためになる内容であった。

実は今、ボーイズラブ業界は未曾有の危機に直面している。東京都の青少年健全育成条例改正により、ボーイズラブ作品は未成年に有害なもの判断され、有害図書指定の末に発禁処分を受ける可能性がある。発禁を避けるためには、この規制に引つかからない内容でしかボーイズラブを描くことができないだろう。そうなると、学生アンケートで堂々の1位に輝いた「高校生×高校生」の性描写はもちろんアウトである。同様に2位の「教師×高校生」、3位の「高校生×教師」も規制に引つかかってしまう。この条例によつて、腐女子の求めるボーイズラブの「王道」が、丸ごと規制されてしまうのである。高校生の出てこないボーイズラブなんて、一体どこで萌えを補給しろというのだろうか。男子校、男子寮、放課後の教室、部活動、保健室、登下校、イケメン保健医、俺様教師……その他、書ききれないほどの萌えが奪われてしまうのである。今も出版社団体による反対運動が続いているが、今後の東京都の動き次第では、腐女子

の未来は暗黒の世界へ葬られてしまいかもしれないのだ。

こうした動きに対し、今は見守ることしかできない自分か、この論文を読んで腐女子とは何なのか、少しでも理解してもらえただろうか。腐女子に対するイメージが少しでも変わったろうか。ボーイズラブとは何なのか、知ってもらえただろうか。日本文学科らしい論文になっただろうか。決してふざけてこのような内容にしたわけではないことが、きちんと伝わっているだろうか。

他学科から見た日本文学科のイメージは、腐女子の影響も多分にある。あまり目立たない非腐女子半数と、何かと言動が目立つ腐女子半数がいれば、当然腐女子の印象のほうが強烈だろう。しかし、いつの日か、オタクが多いことが決してマイナスイメージにならない日が来ることを、私は願ってやまない。

参考文献

- 杉浦由美子『オタク女子研究 腐女子思想大系』原書房、二〇〇六年
杉浦由美子『腐女子化する世界 東池袋のオタク女子たち』中公新書ラクレ、二〇〇六年
腐女『腐女子の品格』リブレ出版、二〇〇八年
腐れ女子の会『腐女子取扱説明書コミック』コトブキヤ、二〇〇九年
大崎祐美『腐女子のことば』一迅社、二〇〇九年